(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第4549773号
(P4549773)

(45)発行日　平成22年9月22日(2010.9.22)　(24)登録日　平成22年7月16日(2010.7.16)

(51)Int.Cl.			F I		
G09F	7/20	(2006.01)	G09F	7/20	
G09F	1/10	(2006.01)	G09F	1/10	F
A47F	5/00	(2006.01)	G09F	1/10	M
			A47F	5/00	E

請求項の数 2　(全 9 頁)

(21)出願番号　特願2004-232349 (P2004-232349)
(22)出願日　平成16年8月9日 (2004.8.9)
(65)公開番号　特開2006-47921 (P2006-47921A)
(43)公開日　平成18年2月16日 (2006.2.16)
審査請求日　平成19年4月17日 (2007.4.17)

(73)特許権者　000213138
中日産業株式会社
愛知県名古屋市天白区野並１－２２２
(74)代理人　100076473
弁理士　飯田　昭夫
(72)発明者　林　光蔵
愛知県名古屋市天白区野並１丁目２２２番地　中日産業株式会社内

審査官　宮本　昭彦

最終頁に続く

(54)【発明の名称】陳列棚用ポップ支持具

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

陳列棚の上部に水平に取り付けられた水平支持バー上に、掲示用のポップを前方斜め下方に向けて支持するための陳列棚用ポップ支持具であって、

該ポップの縁部を嵌め込んで支持するポップ支持レールと、該ポップ支持レールを該水平支持バーに対し取り付けるための１対のポップ支持バーとを備え、

該ポップ支持レールには該ポップの縁部を嵌入するためのレール溝部が形成され、該レール溝部の背面側に該ポップ支持バーの先端部を係止させるための支持バー嵌合レール部が形成され、該ポップ支持バーの先端には上係止部と下係止部を有する嵌合片が設けられ、該ポップ支持バーの末端には該水平支持バーに係合可能なコ字状係止片が設けられ、該ポップ支持レールの支持バー嵌合レール部には該嵌合片の上係止部が嵌合する１本の上係合溝部を上側に設けると共に、該下係止部が選択的に嵌合する複数本の下係合溝部を隣接して下側に設けたことを特徴とする陳列棚用ポップ支持具。

【請求項２】

陳列棚の上部に水平に取り付けられた水平支持バー上に、掲示用のポップを前方斜め下方に向けて支持するための陳列棚用ポップ支持具であって、

該ポップの縁部を嵌め込んで支持するポップ支持レールと、該ポップ支持レールを該水平支持バーに対し取り付けるための１対のポップ支持バーとを備え、

該ポップ支持レールには該ポップの縁部を嵌入するためのレール溝部が形成され、該レール溝部の背面側に該ポップ支持バーの先端部を係止させるための支持バー嵌合レール部

が形成され、該ポップ支持バーの先端には上係止部と下係止部を有する嵌合片が設けられ、該ポップ支持バーの末端には該水平支持バーに係合可能なコ字状係止片が設けられ、該ポップ支持レールの該支持バー嵌合レール部には、該嵌合片の下係止部が嵌合する１本の下係合溝部を下側に設けると共に、該上係止部が選択的に嵌合する複数本の上係合溝部を隣接して上側に設けたことを特徴とする陳列棚用ポップ支持具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、大形量販店などにおいて、陳列棚の上部にポップを前方斜め下方に向けて表示するための陳列棚用ポップ支持具に関する。

【背景技術】

【０００２】

従来、陳列棚の上部にポップを表示するための陳列棚用ポップ支持具が下記の特許文献１などにおいて提案されている。この陳列棚用ポップ支持具は、陳列棚の支柱の上部に逆Ｌ字状のポップ支持バーが、係止金具を介して、棚の前方に向けて取付けられ、ポップ支持バーの水平部分の２箇所にポップ係止具が取付けられ、その２箇所のポップ係止具を介してポップを吊下げる構造であった。

【特許文献１】特開平８－２７２３０４号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００３】

しかし、従来のこの種の陳列棚用ポップ支持具は、ポップが前方に突き出したポップ支持バーに揺動可能に吊下げられて表示するため、ポップは必然的に鉛直姿勢をとる。このため、高さの高い陳列棚の場合、ポップの位置がかなり上方で且つ鉛直姿勢をとるため、顧客が真下からポップを見上げたとしても、ポップを視認しにくいという課題があった。また、従来の吊下げ式のポップは、陳列棚に前方に突設された逆Ｌ型のポップ支持バーに吊下げられていたため、横方向からはポップを視認できるものの、陳列棚の正面に立った顧客からはポップが非常に見にくいという課題があった。

【０００４】

本発明は、上述の課題を解決するものであり、陳列棚の正面から陳列棚上に掲示したポップを見やすく表示することができる陳列棚用ポップ支持具を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００５】

本発明に係る陳列棚用ポップ支持具は、陳列棚の上部に水平に取り付けられた水平支持バー上に、掲示用のポップを前方斜め下方に向けて支持するための陳列棚用ポップ支持具であって、該ポップの縁部を嵌め込んで支持するポップ支持レールと、該ポップ支持レールを該水平支持バーに対し取り付けるための１対のポップ支持バーとを備え、該ポップ支持レールには該ポップの縁部を嵌入するためのレール溝部が形成され、該レール溝部の背面側に該ポップ支持バーの先端部を係止させるための支持バー嵌合レール部が形成され、該ポップ支持バーの先端には上係止部と下係止部を有する嵌合片が設けられ、該ポップ支持バーの末端には該水平支持バーに係合可能なコ字状係止片が設けられ、該ポップ支持レールの支持バー嵌合レール部には該嵌合片の上係止部が嵌合する１本の上係合溝部を上側に設けると共に、該下係止部が選択的に嵌合する複数本の下係合溝部を隣接して下側に設けたことを特徴とする。

【０００６】

ここで、上記ポップ支持レールの支持バー嵌合レール部には、上記とは逆に、嵌合片の下係止部が嵌合する１本の下係合溝部を下側に設けると共に、その上係止部が選択的に嵌合する複数本の上係合溝部を隣接してその上側に設けることもできる。

【発明の効果】

【０００７】
上記構成の陳列棚用ポップ支持具によれば、ポップ支持レールのレール溝部にポップの下側縁部が嵌入されて保持され、ポップは陳列棚の上部に前方斜め下方を向いて支持される。このため、陳列棚の正面に立つ顧客はポップを良好に視認することが可能となる。また、ポップ支持レールは、その支持バー嵌合レール部の下側に隣接して設けた複数の下係合溝部を、選択的にポップ支持バーの嵌合片の下係止部に嵌合可能であるため、陳列棚の高さが高い場合は、ポップ支持レールに嵌入されるポップの前方傾斜角度を大きくするように下係止部を複数の下係合溝部に対し選択して嵌合し、陳列棚の高さが低い場合は、ポップ支持レールに嵌入されるポップの前方傾斜角度を小さくするように下係止部を複数の下係合溝部に対し選択して嵌合する。

【０００８】
これにより、支持するポップの前方傾斜角度を陳列棚の高さに合わせて変更することができ、顧客が真下或はその前方から陳列棚の上部に設置されたポップを見た場合でも、高さの高い陳列棚から高さの低い陳列棚まで、掲示されたポップを見やすく表示することができる。さらに、従来の吊下げ式のポップは、陳列棚に前方に突設された逆Ｌ型のポップ支持バーに吊下げられていたため、横方向からはポップを視認できるものの、陳列棚の正面に立った顧客からはポップが非常に見にくいという不具合があったが、本ポップ支持具によれば、ポップを前方斜め下方に向けて掲示できるため、陳列棚の正面に立った顧客に対し陳列棚上のポップを非常に見やすく表示することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【０００９】
以下、本発明の一実施形態を図面に基づいて説明する。図１は使用状態の陳列棚用ポップ支持具１の全体斜視図を示し、図２はそのポップ支持具１の部分斜視図を示している。この陳列棚用ポップ支持具１は、陳列棚４の支柱５間に水平に取り付けられた水平支持バー８に対し固定される１対の金属製のポップ支持バー２と、１対のポップ支持バー２に対し支持バー嵌合レール部３１を介して水平に係止され、ポップ９を保持する長尺の合成樹脂製のポップ支持レール３と、から構成されている。

【００１０】
１対のポップ支持バー２は、図２、図３に示すように、金属製のロッドを略直角（逆Ｌ形）に折り曲げて形成した逆Ｌ形ロッド２１と、その逆Ｌ形ロッド２１の上端に固定された嵌合片２４と、逆Ｌ形ロッド２１の下端に固定された略コ字状のコ字状係止片２２と、から構成される。ポップ支持バー２の各固定部は溶接により固定されている。嵌合片２４は、板状金属を略くの字状に曲折して形成され、その上部に上係止部２４ａが、ポップ支持レール３の支持バー嵌合レール部３１の上係合溝部３１ａに係止可能に形成され、その下部に下係止部２４ｂが、ポップ支持レール３の支持バー嵌合レール部３１の第１下係合溝部３１ｂまたは第２下係合溝部３１ｃに係止可能に形成されている。

【００１１】
逆Ｌ形ロッド２１の下端に溶接された略コ字状のコ字状係止片２２は、陳列棚４の帯板状の水平支持バー８に上から嵌合可能に金属板をコ字状に曲折して形成され、その正面側にねじ孔が穿設され、固定ねじ２３がねじ孔にねじ込まれている。この逆Ｌ形ロッド２１は水平支持バー８の任意の位置に上から任意の位置に係合可能であり、固定ねじ２３を緩めた場合、希望する位置に摺動させることができる。逆Ｌ形ロッド２１は固定ねじ２３を締め付けることにより、その先端で水平支持バー８を押圧して固定される。

【００１２】
一方、ポップ支持レール３は、所定の矩形パネル状に形成されたポップ（例えば軽量の発泡プラスチック板の表面に商品情報などを印刷した紙面を貼り付けた表示板）９の下縁部を下側から保持可能な一定断面形状をもったレール状に、例えば合成樹脂の押し出し成形により形成されている。このポップ支持レール３は、その背面側にポップ支持バー２の嵌合片２４を嵌合させるための支持バー嵌合レール部３１を設け、その正面側にポップ９を保持するためのポップ支持用のレール部３２を設けて一体成形される。

【００１３】
背面側の支持バー嵌合レール部３１は、図３、図４に示すように、ポップ支持バー２の嵌合片２４を上下から挟持するようなレール状に形成され、支持バー嵌合レール部３１の上部には１本の上係合溝部３１ａが長手方向に沿って形成される。一方、支持バー嵌合レール部３１の下部には、２本の第１下係合溝部３１ｂと第２下係合溝部３１ｃが前後に位置をずらして（前後に隣接して）、且つ長手方向にそって形成されている。上係合溝部３１ａは嵌合片２４の上係止部２４ａが嵌合係止可能に形成され、２本の第１下係合溝部３１ｂと第２下係合溝部３１ｃは、嵌合片２４の下係止部２４ｂが嵌合係止可能に形成されている。
【００１４】
また、これらの２本の第１下係合溝部３１ｂと第２下係合溝部３１ｃは、嵌合片２４の下係止部２４ｂを選択的に係合可能に形成され、図４のように、第１下係合溝部３１ｂに下係止部２４ｂを係合させた場合は、ポップ支持レール３の前方傾斜角度αが大きくなり、図５のように第２下係合溝部３１ｃに下係止部２４ｂを係合させた場合は、ポップ支持レール３の前方傾斜角度αが小さくなるようにしている。嵌合片２４の上係止部２４ａは１本の上係合溝部３１ａにのみ嵌合係止される。ポップ支持レール３は、このような２本の第１下係合溝部３１ｂと第２下係合溝部３１ｃに、嵌合片２４の下係止部２４ｂを選択的に嵌合させることにより、支持バー嵌合レール部３１つまりポップ９の前方斜め下向き支持角度αを、図４、図５に示すように、例えば３０度、２０度と変えるようにしている。
【００１５】
すなわち、ポップ支持レール３の支持バー嵌合レール部３１の下部に、第１下係合溝部３１ｂと第２下係合溝部３１ｃが前後に隣接して形成されているため、上係合溝部３１ａに嵌合片２４の上係止部２４ａを嵌合させた状態で、ポップ支持バー２の嵌合片２４の下係止部２４ｂを第１下係合溝部３１ｂに係合させた場合と第２下係合溝部３１ｃに係合させた場合で、ポップ支持レール３の取付角度を、図４、図５に示す如く、鉛直線に対し前方への傾斜角度αを３０度または２０度とするように変更することができる。
【００１６】
ポップ支持レール３の正面側に設けたポップ支持用のレール部３２には、その下部にポップ９の下縁部を嵌入保持させるためのレール溝部３２ａが長手方向に沿って形成される。また、レール部３２から上方に立ち上がった側壁部には、ポップ９を押えるためのポップ押え部３２ｂが形成されている。ポップ９は、このポップ支持レール３の正面側のレール部３２のレール溝部３２ａ内に押し込むように或は横方向から摺動させて差し込まれ、ばね弾性を有したポップ押え部３２ｂにより押えられてレール溝部３２ａ内に保持される構造である。
【００１７】
このように構成された陳列棚用ポップ支持具１は、図１に示すように、陳列棚４の上に、ポップ９を掲示する際に使用される。陳列棚４は、図１に示すように、ベース７上の両側に支柱５を立設し、その支柱５間に金属製ネット６を設けて形成される。また、陳列棚４の支柱５の正面側には、多数の長孔状の係止孔５ａが穿設されている。水平支持バー８の両端部には係止片８ａが固定され、支柱５の係止孔５ａに係止片８ａを係止させることにより、水平支持バー８が陳列棚４の上部位置に水平に取り付けられる。
【００１８】
ポップ支持具１を用いてポップ９を陳列棚４上に掲示する場合、先ず、掲示するポップ９は長尺のポップ支持レール３のレール部３２のレール溝部３２ａ内に上からはめ込まれる。ポップ９の長さはレール部３２の長さと略同じに設定されている。ポップ９は、例えば軽量の発泡プラスチック板の表面に商品情報などを印刷した紙面を貼り付けた表示板として形成され、レール部３２にはポップ押え部３２ｂが設けてあるため、レール溝部３２ａ内に横方向からまたは縦方向から挿入したとき、ポップ９はポップ押え部３２ｂにより弾性をもって容易に且つ確実に保持される。

【００１９】
次に、レール部３２の背面部に１対のポップ支持バー２を図２のように嵌め込む。この場合、ポップ支持バー２の先端の嵌合片２４を、ポップ支持レール３の端部から支持バー嵌合レール部３１の内側に摺動させながら嵌入させ、嵌合片２４の上係止部２４ａは支持バー嵌合レール部３１の上係合溝部３１ａにはめ込み、嵌合片２４の下係止部２４ｂは支持バー嵌合レール部３１の第１下係合溝部３１ｂまたは第２下係合溝部３１ｃに選択的にはめ込む。
【００２０】
つまり、図４のように、ポップ９の前方傾斜角度αを３０度として、より下向きにポップ９を掲示する場合は、嵌合片２４の下係止部２４ｂを支持バー嵌合レール部３１の第１下係合溝部３１ｂにはめ込む。一方、図５のように、ポップ９の前方傾斜角度αを２０度として、より上向きにポップ９を掲示する場合は、嵌合片２４の下係止部２４ｂを支持バー嵌合レール部３１の第２下係合溝部３１ｃにはめ込む。１対のポップ支持バー２は、ポップ支持レール３に対し摺動可能であり、レール３の端部から内側に嵌め入れ、ポップ９の両側寄りの任意の位置に摺動させて装着することができる。
【００２１】
次に、上記のように、ポップ９、ポップ支持レール３及び１対のポップ支持バー２の組付け体を、図１、図２のような陳列棚４の水平支持バー８に対し、ポップ支持バー２のコ字状係止片２２を介して取り付ける。陳列棚４の水平支持バー８は、図１のように、その両端に鉤型の係止片８ａが設けられており、その係止片８ａを、陳列棚４の支柱５の正面側に設けられた係止孔５ａに差し込むことにより、水平に係止され保持される。そして、１対のポップ支持バー２のコ字状係止片２２が、水平支持バー８の上から嵌合され、固定ねじ２３を締め付けて、１対のポップ支持バー２は水平支持バー８に対し固定される。
【００２２】
ポップ支持レール３と１対のポップ支持バー２を介して陳列棚４の上部に取り付けられたポップ９は、図１のように、正面を向き且つ前方斜め下方を向いて支持される。このとき、ポップ９の前方傾斜角度は、ポップ支持バー２の嵌合片２４の下係止部２４ｂを、支持バー嵌合レール部３１の第１下係合溝部３１ｂまたは第２下係合溝部３１ｃに選択的にはめ込むことにより得られた支持角度により決定される。
【００２３】
すなわち、高さが比較的高い陳列棚であって、より下向きにポップ９を掲示したい場合、ポップ支持バー２の嵌合片２４の下係止部２４ｂを支持バー嵌合レール部３１の第１下係合溝部３１ｂはめ込み、図４のように、ポップ９の鉛直軸に対する角度αを、より大きく例えば３０度として組付ける。一方、高さが比較的低い陳列棚であって、より上向きにポップ９を掲示したい場合、ポップ支持バー２の嵌合片２４の下係止部２４ｂを支持バー嵌合レール部３１の第２下係合溝部３１ｃはめ込み、図５のように、ポップ９の鉛直軸に対する角度αを、より小さく２０度として組付けるようにする。これにより、高さの低い陳列棚から高さの高い陳列棚まで、陳列棚の高さに合わせてポップ９の傾斜角度を変更し、顧客が陳列棚４の正面に立って見やすいように、ポップ９の支持角度を変えて掲示することができる。
【００２４】
このように、本陳列棚用ポップ支持具１によれば、顧客が正面真下から陳列棚の上部に設置されたポップを見上げた際、高さの高い陳列棚から高さの低い陳列棚まで、ポップ９を見やすく表示することができる。また、従来の吊下げ式のポップは、陳列棚の前方に突設された逆Ｌ型のポップ支持バーに吊下げられていたため、横方向からはポップを視認できるものの、陳列棚の正面に立った顧客からはポップが非常に見にくいという不具合があったが、本ポップ支持具１によれば、陳列棚４の前方斜め下方に向けてポップを掲示するため、陳列棚４の正面に立った顧客に対しポップ９を非常に見やすく表示することができる。
【００２５】

なお、上記実施形態では、ポップ支持レール３の支持バー嵌合レール部３１には２本の第１下係合溝部３１ｂ、第２下係合溝部３１ｃを前後隣接して配設したが、図６のように、３本の第１下係合溝部３１ｂ、第２下係合溝部３１ｃ、第３下係合溝部３１ｄを設け、ポップ支持バー２の嵌合片２４の下係止部２４ｂを支持バー嵌合レール部３１の第３下係合溝部３１ｄにはめ込んだ場合、ポップ９の支持角度αを例えば１０度とすることもできる。また、図７のように、４本の第１下係合溝部３１ｂ、第２下係合溝部３１ｃ、第３下係合溝部３１ｄ、第４下係合溝部３１ｅを前後に隣接して設けた場合、ポップ９の支持角度を３０度から０度まで任意の設定角度に変更することができる。

【００２６】

また、上記実施形態では、ポップ支持レール３の支持バー嵌合レール部３１の上部に１本の上係合溝部３１ａを設け、その下部に２本以上の第１下係合溝部３１ｂ、第２下係合溝部３１ｃ・・・を配設したが、それとは逆に、支持バー嵌合レール部の下部に１本の下係合溝部を設け、その上部に複数本の上係合溝部を前後に隣接して設けて、それらの上係合溝部への上係止部２４ａの係合を変えて、ポップの支持角度を変更することもできる。

【図面の簡単な説明】

【００２７】

【図１】本発明の一実施形態を示す陳列棚用ポップ支持具の使用状態を示す斜視図である。

【図２】陳列棚用ポップ支持具の部分斜視図である。

【図３】分解した状態の陳列棚用ポップ支持具の部分斜視図である。

【図４】ポップ支持バー２とポップ支持レール３の嵌合部の拡大断面図である。

【図５】ポップの支持角度を２０度に変更した状態のポップ支持バー２とポップ支持レール３の嵌合部の拡大断面図である。

【図６】他の実施形態を示し、ポップの支持角度を１０度とした場合のポップ支持バー２とポップ支持レール３の嵌合部の拡大断面図である。

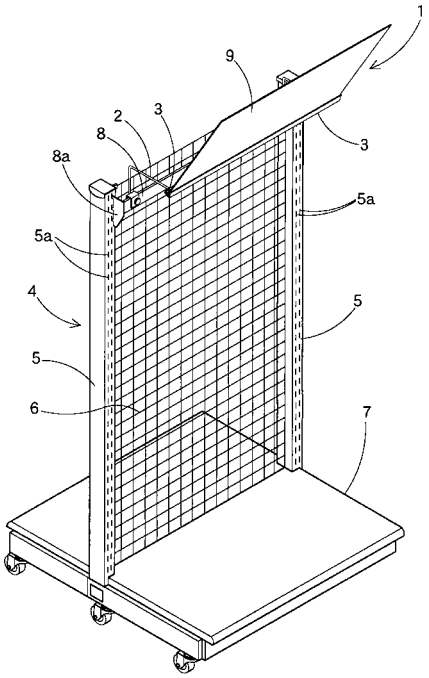
【図７】他の実施形態を示し、ポップの支持角度を０度とした場合のポップ支持バー２とポップ支持レール３の嵌合部の拡大断面図である。

【符号の説明】

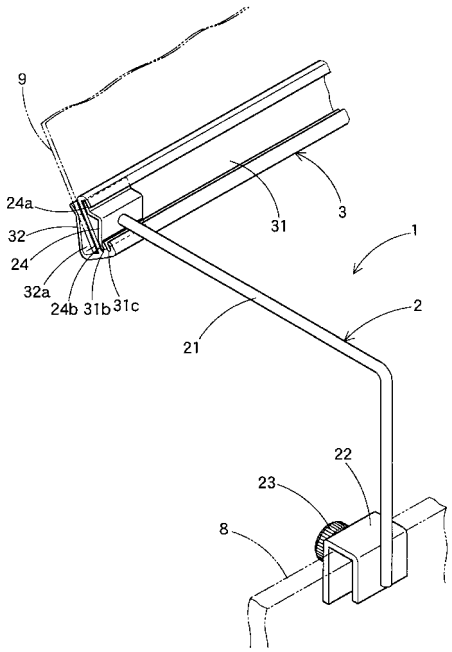
【００２８】

１－ポップ支持具
２－ポップ支持バー
３－ポップ支持レール
４－陳列棚
８－水平支持バー
２２－コ字状係止片
２４－嵌合片
２４ａ－上係止部
２４ｂ－下係止部
３１－支持バー嵌合レール部
３１ａ－上係合溝部
３１ｂ－第１下係合溝部
３１ｃ－第２下係合溝部
３２－レール部
３２ａ－レール溝部

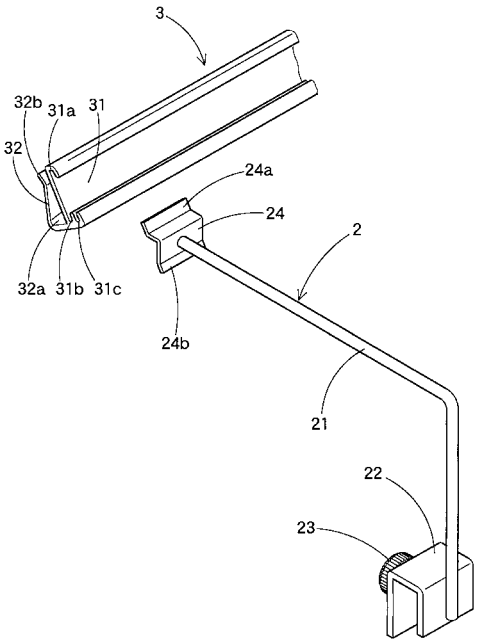
【図１】


1
9
2
3
8
8a
3
5a
5a
4
5
5
6
7

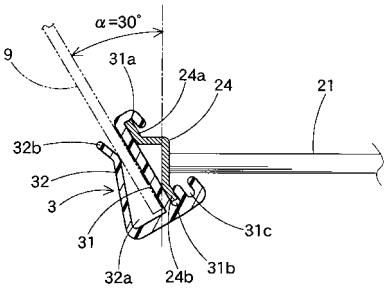
【図２】


9
24a
32
24
32a
24b
31b
31c
31
3
1
2
21
22
23
8

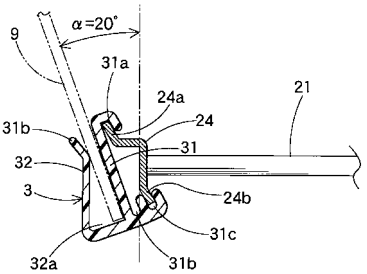
【図３】


3
32b
31a
31
32
24a
24
2
32a
31b
31c
24b
21
22
23

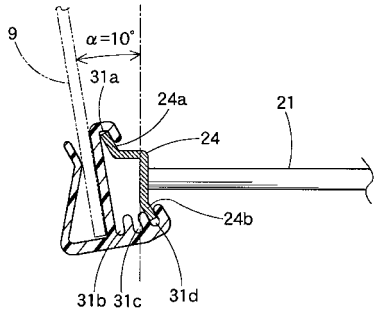
【図４】


α=30°
9
31a
24a
24
21
32b
32
3
31
31c
32a
24b
31b

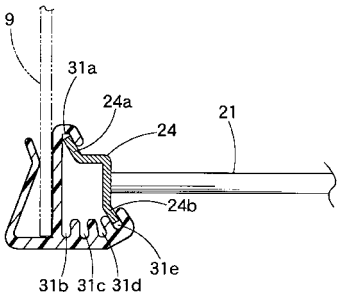
【図５】


α=20°
9
31a
24a
21
31b
24
32
31
3
24b
31c
32a
31b

【図６】


9
α=10°
31a
24a
21
24
24b
31b
31c
31d

【図７】


9
31a
24a
21
24
24b
31e
31b
31c
31d

フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭５４－８６０００（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６１－０４２５７３（ＪＰ，Ｕ）
実開昭４９－０９４５９５（ＪＰ，Ｕ）
実公昭４６－０１１０８７（ＪＰ，Ｙ１）
特開平０５－００３８２３（ＪＰ，Ａ）
特開２００３－２３３２３（ＪＰ，Ａ）
特開平７－３１１５５３（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｇ０９Ｆ　　７／００　－　７／２２
Ｇ０９Ｆ　　１／１０
Ａ４７Ｆ　　５／００